

## 大腸腫瘍の側方断端及び深部断端における距離測定の標準化

平成23年7月7日都市センターホテル

委員長 菅井 有（岩手医科大学病理学講座分子診断病理学分野）

委員

藤盛孝博（獨協医科大学病理学講座人体分子病理学）

大倉康男（杏林大学病理学）

落合敦志（国立がんセンター東病院臨床開発センター）

味岡洋一（新潟大学病理学講座分子・診断病理学）

新井富生（東京都健康長寿医療センター病理診断科）

八尾隆史（順天堂大学人体病理病態学）

九嶋亮治（国立がん研究センター中央病院病理科）

斉藤祐輔（市立旭川病院消化器センター）

田中信治（広島大学先端医療開発科学講座内視鏡医学）

山野泰穂（秋田日赤病院消化器病センター）

安藤正夫（金上病院）

千葉俊美（岩手医科大学消化器肝臓内科）

松田尚久（国立がん研究センター中央病院消化器内視鏡科）

本間清明（日本海病院内視鏡内科）

敬称略

議事

- 委員の選定を行った。
- プロジェクト研究の内容について以下のことを決定した。
- 後向き研究における基準を作成し、その妥当性を前向き研究で証明するが、後向きのデータを集積することを優先する。側方断端と深部断端のグループに分ける。
- 側方断端解析症例：各施設から表面型（LST、IIa、IIc）腫瘍で、側方距離を測定できる症例を集積する。病理の各委員にブラインドで距離測定を依頼する。そのデータと再発の有無について比較検討し基準作成を行う。解析対象：1) 表面型腫瘍（LST、IIa、IIc）、2) 腺腫と腺癌、3) 1年以上経過した断端再発症例、とする。
- 深部断端解析症例：1) 粘膜下層浸潤癌、2) 3年以上経過観察例、3) 1)と2)を断端再発陽性例と陰性例に分けて距離測定を行う。本研究に適当でない

と判断した例は除外する。これに関しては可能な限り施設から未染標本 12 埋程度を供与していただく。

- 後向き研究のための標本は12月までに収集する。病理医による距離測定は、来年4月まで終了する。データの評価は、来年7月をめどに行う。
- 基準の最終的妥当性を委員で評価し、基準案を提案する。